

**ニュースレター**

〒 101-0061 東京都千代田区三崎町 2 丁目 6 番 9 号  
tel. 03-3237-7073 fax. 03-5215-1952 mail: contact@aeeri.org

理事長 大橋 英 五  
編集長 前畑 憲 子  
事務局 村田 浩 司

ニュースレター23号をお送りいたします。すでにお知らせしましたように、9月14日～15日にかけて第4回の福島ツアーが行われました。今号以降のニュースレターでは、このツアーに参加された方々のエッセイなどを順次掲載いたします。今号では、4回にわたる福島ツアーの行程および会員から寄せられた福島第一原発事故とその後を取り扱った映画の紹介をお届けいたします。いくつかの映画をすでにご覧になった会員もいらっしゃるかと思います。感想などをニュースレター担当まで是非お寄せいただければ幸いです。

記事内容

- ・ お知らせコーナー ----- 1
- ・ 報告・記事コーナー ----- 2-4

☆ お知らせコーナー

以下のお知らせはすでに会員 ML で送付されていますが、ここに再録しました。

**ROEEE 臨時総会（12月2日）のお知らせ**

**法改正に伴う定款変更のための ROAEE 臨時総会のお知らせ**

特定非営利活動促進法の改正に伴い、毎年度、貸借対照表を公告することが必要になりました。また、公告方法は定款で定める必要があります。

内閣府によれば貸借対照表の「公告の方法は、①官報に掲載、②時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙に掲載、③電子公告（法人の HP 等）、④不特定多数の者が公告すべき内容である情報を認識できる状態に置く措置」があるとあり、④については「法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所への掲示」（1年間）が想定されているということです。

以上を踏まえて、2018年10月7日開催の理事会で、貸借対照表の公告は ROAEE の HP で行うことを決定し、次のように、定款第 46 条第 1 項に「貸借対照表の公告はこの法人の HP で行う。」という文章を追加することを総会に提案することになりました。

「第 46 条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。貸借対照表の公告はこの法人の HP で行う。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。」

つきましては、以上の定款変更のために、以下の要領で ROAEE 臨時総会を開催いたしますので、ご出席くださいますようお願いいたします。なお、定款の変更には会員の 4 分の 3 以上の同意が必要となります。出席できない方は、是非委任状を提出して下さるようお願いいたします。委任状のひな型を添付しますので、それにご記入のうえ、担当理事の小西の次のアドレスに送信していただくようお願い申し上げます。

[konishi@rikkyo.ac.jp](mailto:konishi@rikkyo.ac.jp)

記

特定非営利活動法人アジア環境・エネルギー研究機構臨時総会のご案内

日時：12月2日（日）14：00～15：00

会場：立教大学池袋キャンパス 5 号館 1 階会議室（以前この会議室で総会を行ったことがあります。通常使用している会議室とはことなりますのでご注意ください。）

議案：特定非営利活動促進法の改正に伴う貸借対照表の公告方法の決定、それに伴う定款の改正の件。

なお、総会終了後 15：00 から、**那須野公人氏（作新学院大学経営学部教授）を講師として研究会を開催します。**この件については詳細を追って連絡させていただきます。

## ☆ 報告・記事コーナー

### 1) ROAEE 福島ツアーの行程

ROAEE では 2014 年からこの間 4 回の福島ツアーを開催しました。それぞれ以下のような行程をとりました。その時々で若干行程は変わっていますが、とくに、飯館・浪江・富岡・南相馬小高などは毎回訪れています。外形的变化の早さには驚かされますが、しかし、被災者に寄り添った復興がなされているのか大いに疑問の残る現状です。被災地の定点観測から垣間見えた諸問題について、参加者の感想は次号以降、順次掲載いたします。

#### 第 1 回 2014 年 6 月 7 日～8 日

7 日： 福島駅 ⇒ 避難地区での飯館村菅野村長との面談 ⇒ 飯館村通過  
⇒ 浪江町請戸地区 ⇒ 土湯温泉地熱発電事業の説明会

8 日： 土湯温泉 ⇒ 農民連運営霊山町太陽光発電プラント見学 ⇒ 南相馬市、および浜通り農産物供給センター・野馬戸アンテナショップ見学 ⇒ 福島市内

## 第2回 2015年4月4日～5日

- 4日： 茨城県那珂郡東海村・日本原子力発電東海事業所、東海テラパークを見学 ⇒ 東海村村議相沢正一氏と懇談
- 5日： 原発事故賠償問題を勉強する有志の会・堀内則夫氏、NPO法人大震災義援丑寅旅団・平田誠剛氏の案内で、いわき市泉玉露・富岡町応急仮設住宅、富岡町夜ノ森、大熊町、双葉町、浪江町、JR富岡駅、JR竜田駅などを視察

## 第3回 2017年3月24日～25日

- 24日： 福島再生可能エネルギー研究所（国立研究開発法人産業技術総合研究所）見学
- 25日： 福島市から飯館村を経て、浪江町請戸橋 ⇒ 浪江町請戸小学校 ⇒ 浪江町丈六公園 ⇒ 浪江町町内 ⇒ 南相馬市小高地区・鈴木安蔵生家 ⇒ 南相馬市小高区希望の牧場

## 第4回 2018年9月14日～15日

- 14日： 浪江町請戸橋 ⇒ 浪江町請戸小学校 ⇒ 大平山霊園（請戸地区高台） ⇒ 浪江町丈六公園 ⇒ 南相馬市小高地区・鈴木安蔵生家 ⇒ 小高町4小学校合同校舎 ⇒ 震災後閉館となり今年5月に再開した抱月亭に宿泊
- 15日： 飯館村見学； まいでい館（道の駅） ⇒ 飯館村中心部でグラウンド・体育施設などを見学 ⇒ 飯館村役場 ⇒ 帰還困難地区入口 ⇒ ガイドの野馬戸・渡辺氏宅 ⇒ 減容化焼却施設
- 帰路； 運転手兼ナビゲーターの宮下智行氏（市民活動家）の案内で、JR富岡駅、富岡町夜ノ森、檜葉町（・広野町）Vビレッジなど。

○次の写真3枚の撮影場所は、いずれも浪江町請戸地区の避難解除地域内の丈六公園です。

2017年3月25日

下記右写真とほぼ同じ場所 2.305  $\mu$ SV  $\approx$  20mSV



2018年9月14日

丈六公園前の線量計の数値  $0.372 \mu\text{SV} \approx 3.3\text{mSV}$  左の線量計から3mほどの地上の線量  
 $4.926 \mu\text{SV} \approx 43.2\text{mSV}$



(写真提供：小西一雄会員)

## 2) 原発事故関連の映画紹介——円谷英夫会員

私が最近観た原発事故関連映画のご紹介

※詳細は公式サイトをご覧ください。

つぶらや・ひでお

### 1. 「おだやかな革命」 2017年渡辺智史監督 いでは堂

会津電力、飯館電力、岐阜県郡上市の小水力発電、秋田県にかほ市の市民風車、森林資源を生かしたビジネスを立ち上げる岡山県西栗倉村など、各地のエネルギー自給の取り組みと、それによって生まれる新しい生きがい、暮らしを描く。

<http://odayaka-kakumei.com/>

### 2. 「日本と再生」 光と風のギガワット作戦 2017年河合弘之監督 Kプロジェクト

数々の原発訴訟を手がける河合弁護士が、環境学者の飯田哲也さんとともに国内外の各地を訪ね、自然エネルギーで十分やれることを証明するルポ。「自然エネルギーは不安定」「自然エネルギーは高くつく」「ドイツの脱原発はフランスから原発電気を買っているからインチキ」といった指摘を論破する。河合監督には、この他「日本と原発」「日本と原発 4年後」という作品がある。

<http://www.nihontogenpatsu.com/>

### 3. 「被ばく牛と生きる」 2017年松原保監督 パワーアイ

国の殺処分指示に抗い、警戒区域の中に住み、また避難先の仮設住宅から通い、被ばくした牛の世話を続けている4人を5年間取材して記録した。原発事故で故郷も仕事も奪われながらも、経済価値のない牛を生きし続ける畜産農家の心情を描く。

<http://www.power-i.ne.jp/hibakuushi/>

### 4. 「たゆたいながら」 2018年阿部周一監督

浪江、飯館の延長線上にある福島市は、放射能に汚染されながらも避難区域に指定されなかった。避難した人は自主避難者とされ、避難指示を受けた人のような支援は受けられなかった。自らも自主避難した監督は、県外に自主避難した人、福島市に残った人双方にカメラを向け、分断を描き出した。

<http://fukushimavoice.net/2018/08/2940>

### 5. 「新地町の漁師たち」 2016年山田徹監督

福島県の最北部、新地町。漁に出られない漁師の葛藤と、東電の地下水バイパス計画への賛否の対立を描く。津波と原発事故によって生じた漁業者の軋轢と葛藤の記録。

<http://shinchi-ryoshi.businesscatalyst.com/>

### 6. シリーズ「福島 生きものの記録」①～⑤ 岩崎雅典監督 群像舎

福島第一原子力発電所の事故で広がった放射性物質が生態系に与える影響を追跡・調査・記録しているドキュメンタリー・シリーズ。岩崎雅典監督が毎回テーマに沿って取材し、被爆した動物たちに起きた異変を追う。合わせて、科学者らのメッセージも紹介する。

① 「被爆」2013年

② 「異変」2014年

③ 「拡散」2015年

④ 「生命」2016年

⑤ 「追跡」2017年

<http://gunzocha-july.tumblr.com/fukushima>

### 7. 「フタバから遠く離れて」第一部2012年、第二部2014年 船橋淳監督 ドキュメンタリージャパン

双葉町は全面立入禁止の警戒区域となり、1400人が250km離れた埼玉県の高校へ地域社会丸ごと移転した。原発推進派だった井戸川町長は、事故が長期化するにつれ微妙に変化してゆく。復興が加速してきても、取り残されていく避難所の日々を描く。

<http://nuclearnation.jp/jp/part1/>

### 8. 「無知の知」 2015年 石田朝也監督 オデッサエンターテイメント

「原発」に疑問を持った監督が、福島の人々や震災直後の官邸と福島第一原発の状況を知る当時の内閣関係者に突撃インタビューを決行する。原子力工学の第一人者や太陽光発電関係者に「知らないので教え

てください」と食い下がる。

<https://eiga.com/movie/81005/>

#### 9. 「願いと揺らぎ」17年ピーストゥリー・プロダクツ、我妻和樹監督、

「お獅子さま」という郷土芸能の復活を軸に、震災後の南三陸町波伝谷（はでんや）を描くドキュメンタリー。我妻監督は、05年から映画撮影に入り「波伝谷に生きる人たち」を完成させた。つまり、同じ土地で震災前後の映画を作った稀有な例となっている。津波で亡くなった人が元気だった頃の姿をとらえており、それが映画に厚みをもたせている。

<https://negaitoyuragi.wixsite.com/peacetree>

#### 10. 「原発切抜帖」82年青林舎、土本典昭監督

水俣を撮り続けてきた土本氏が、予算がないので、新聞記事だけで映画を作った。広島に原爆が投下された翌日は7～8行しかないが、敗戦の翌日には詳細な記事が載っている。つまり、メディアも原爆がどんなものか知っていた。戦後、南太平洋で原爆、水爆の実験が行われ、現住民、米軍兵士、第五福竜丸などが人体実験にさらされる。そして原発の建設ラッシュが。1982年の制作だが、この時点で原発の問題点はほぼ網羅されている。

<http://www.cine.co.jp/detail/0024.html>

#### 11. 「知事抹殺の真実」16年製作委員会、安孫子亘監督、佐藤栄佐久主演

東電福島第一原発の安全対策に厳しかったがゆえに、贈収賄事件をでっち上げられ抹殺された佐藤知事のドキュメンタリー。弟の会社が、土地の売却にあたり不当な高値で買い取らせたことと、ダム建設にあたり土木部長に前田建設を使うよう指示したことが収賄にあたりと有罪判決を受けた。控訴審では収賄金額が0円と認定された。上告も棄却。

<http://eisaku-movie.jp/>

#### 12. 「太陽の蓋」16年「太陽の蓋」プロジェクト、佐藤太監督、北村有起哉主演、

福島第一原発事故直後の首相官邸を舞台に、政治、行政、報道をはじめ福島の地元民、東京の生活者の混乱を描くフィクション。事実関係や実在の人物の言葉は、正しいものと思われる。菅首相が東電に乗り込むと、福島の免震棟、オフサイトセンター、第二原発、柏崎をリアルタイムで結ぶ映像があった。情報はあったが、官邸に上がってこなかった。

<http://taiyounofuta.com/>

#### 13. 「わたしの、終わらない旅」14年シグロ、坂田雅子監督

反原発の市民運動をしていた母が残した「聞いてください」という著作を、震災後改めて読み返し、監督は核を問う旅に出る。フランス、核再処理施設の対岸に住む姉を訪ねる。ビキニ諸島、アメリカの核実験で故郷を追われた住民は今も帰島できない。カザフスタン、ここはソビエトの核実験で汚染されたところだ。どこにも核に翻弄された人たちがいる。

これでもまだ核に頼って生きるのですか、と監督は問いかける。

[http://www.cine.co.jp/owaranai\\_tabi/](http://www.cine.co.jp/owaranai_tabi/)

14. 「彼らの原発」17年制作委員会、川口勉監督

福井県大飯郡大飯町に建設された原発と、折り合いをつけながら生きている地元の人たちを描くドキュメント。特に再稼働に際して全国から批判の声が寄せられたとのことで、住民は反発する。原発容認派同士の町長選を軸に、目の前にある原発に対する本音の建前が交錯する。

[https://twitter.com/Kare\\_Gen](https://twitter.com/Kare_Gen)

今号は以上です。